北海道
日伊協会会報

VOL. 65号　2021年4月
発行　北海道日伊協会
事務局　札幌市中央区南1条東2丁目
ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

コロナ禍と戦う

春　日常回復へ2つの舞台湧く

オペラ蝶々夫人　北緯43度のリア

新型コロナと戦う2度目の春を迎え、全ての大型イベントを閉ざし、ひたすらステイホームして耐える生活から、日常を取り戻す活動が動き出しています。札幌文化芸術劇場 hitaru での「オペラ蝶々夫人」(2月21日。**関連記事2、3、4ページ**)、同クリエイティブスタジオでの演劇「北緯43度のリア」(2月26日～3月5日)は、稽古さえ難しいハンデを乗り越え、座席を半数に抑えながら観客を迎えた公演にこぎつけ、満場の拍手を浴びました。

東京五輪の開催を目指し聖火リレーが3月25日スタートしましたが、最終決定には至っていません。北海道日伊協会は、主要事業のサローネ・ディタリアに代えて、ネットを活用するオンラインサローネの第2弾「ダンテと『神曲』丸わかり講座」を3月16日夜、ミキ・ツーリストの協力で開きました(**関連記事5、6、7ページ**)。感染の恐れを回避する苦心の取り組みです。オンラインによって日常活動を何とか取り戻そうとする動きは、各地で多くの分野に広がっています。

サローネはオンライン 第2弾にダンテ「神曲」

オペラ「蝶々夫人」は、三部安紀子会長が理事長を務める北海道二期会が hitaru との共催で実現。柴田真郁氏指揮で札響が演奏、演出は岩田達宗氏。蝶々夫人を1昨年のサローネで歌った佐々木アンリさんが演じ、会員の岡元敦司さんとお嬢さんのエレンさんは、ヤマドリ公と蝶々夫人の子供役で活躍しました(**写真左**)。

また、「北緯43度のリア」は All Sappro Professional Actors Selection(全札幌職業俳優選抜)の第2弾(**写真上**)。札幌座の斎藤歩氏がシェークスピアの「リア王」を北海道を意識して書き換え、富良野、東京からキャストを招き演出、自ら主演しました。第1弾「虹と雪　慟哭のカッコウ～SAPPORO'72」は昨春、コロナ感染対策のため公演途中で打ち切り、これが再挑戦の舞台。

HTB オンライン劇場はこの2大作をはじめ主要な舞台を意欲的にアーカイブ配信しています。

北海道日伊協会は、第2回のオンラインサローネも好評なことから、シリーズとして継続することを検討しています。

オンラインの活用は図書館が電子本貸し出しに熱心。中止を決めた洞爺湖マラソンは、スマホアプリを使って参加者が居住地か洞爺湖周辺のどちらかで42.195㌔を走る代替大会(5月中下旬)を発表しました。

オペラ「蝶々夫人」に参加して

オペラ「蝶々夫人」の公演は、コロナ禍の中で１ステージのみ、観客は座席一つ置きという制約下でようやく実現した大型イベントでした。 北海道二期会理事長として hitaru との共同制作を成功させた三部安紀子会長、ヤマドリ公役でコミックな味付けを演じた岡元敦司さん、蝶々夫人の子供役として存在感を示したお嬢さんのエレンさん、そして裏方のオペラ制作チーフとして感染対策とドラマづくりを支えた延与幸恵さんら北海道日伊協会会員に、一言語っていただきました。

奇跡！安堵、涙･涙

三部 安紀子

３月21日の北海道二期会とhitaruとの共同制作プロジェクト「蝶々夫人」を無事に終了出来た事は、今思えば奇跡に近かった事かもしれない。

稽古初日から新型コロナウイルス感染拡大予防対策に一人ずつ１㍍20㌢のガードをつくり、マスク必着。中にはマスク着用で息苦しく、呼吸困難となり具合が悪くなる歌手が出たりと道中ハラハラしながらの稽古状態。ニュースではコロナウイルス感染者数が常に発表され終息には程遠い。稽古は途中コロナ予防対策で指揮者、演出家は 2～3回来札できず中止に追い込まれてしまう。歌い手たちは充分な稽古もできない日々が続きどんなにか不安な気持ちでいただろう。

そして今回の演目の舞台創りは極めて大がかりの作品だけに、これが本公演中止となったらどうしょう、と日々不安と恐怖の連続であった。今回の作品の様な和ものは、全ての面で充分に予算取らなければならない程の費用がかかる。でもコーラスグループの留袖、振袖を自前にしてもらったり、会員からの寄贈があったり、協力的な動きがかなりあり、皆のオペラ創りの熱い情熱が伝わり、胸がいっぱいになるほどうれしかった。

いつも体験して思うのだが、オペラ創りは実に大変で、相当覚悟せねば出来るものではない。今回の「蝶々夫人」の公演も200人近くの人々の力が結集して、はじめて一本のオペラができるという大きな事業である。まさに総合芸術の代表公演である。それだけにオペラ公演が無事終了した時の心境は、言葉で言い尽くせない程大きな歓びと安堵感と達成感と‥‥涙･涙！！！だった。

人生！音楽の旅 ㉗

今回の舞台はhitaruの劇場の天井の高さを見事利用して、縦に舞台を使っての表現力。そして美術と照明のコラボが、とても美しく別世界の魅力を充分に発揮した舞台美術。歌い手たちも厳しい状況の中を、それぞれ思う存分力量発揮しての熱演と言えた舞台であった。今回も最後のカーテンコールで「Bravi･Bravi」を何度も叫びたい思いでいっぱいだったが、イベントにおける大声抑止を思い我慢した。

コロナ予防対策で観客動員出来ない場合を見込んでオンライン配信の手配を考えて下さったのがhitaruの館長。HTBオンライン配信のお蔭で全国に知らせることが出来、私も友人たちに「観て、観て配信料かかるけれど！」と締め切り前日まで押し売り。そして想像以上に大好評頂き、オンライン配信の貴重さをつくづく実感している。

（会長、北海道二期会 理事長）

写真は「蝶々夫人」の舞台（©高橋勇弥）

“信頼される歌手”こそ想いを込めた親子出演

岡元　敦司

令和元年度が終わる頃、札幌市芸術文化財団、市民交流プラザより、急遽次年度の hitaru オペラプロジェクトを始動するのでアドバイザリーボード会議に参加して欲しいと連絡があり、札幌市で活躍するオペラ団体やオペラ歌手が招集されました。そこで初めてオペラ「蝶々夫人」を地域の力を使って hitaru で公演する事を知り、胸が高鳴ったことがつい最近の出来事のようです。イタリアを第二の故郷と想う私にとって、このオペラは特別な存在で、日本人として最も創作意欲が湧く演目の１つです。

音楽はプッチーニの作る全盛期イタリアオペラの魅力が散りばめられていて、歌手は音楽を忠実に理解することで自ずとそのキャラクターに誘われます。感染症が流行する中、私たちはプッチーニの儚く美しいドラマを作曲者に見守られていると思いながら札幌で成功させるために無我夢中で取り組んでいたのかもしれません。

岡元さんのヤマドリ公メイク。後ろエレンさ

今回私が挑戦したことは、脇を固めるコンプリマリオです。そのキャラクター造りには、自分の経験や知識が反映されるので実力を試されることと覚悟していました。

ふと私のイタリアの友人が主役級の出演を止め、コンプリマリオばかりやっていたことを思い出しました。彼の答えは、生活のため・・・まるで回転寿司のように色々なネタが出てくる技術は多くの共演者や愛好家から信頼を得ていました。イタリアに住み始めた頃、丁度「蝶々夫人」の領事役オーデションがあり、最終的に抜擢されなかった事がありました。その当時アジア系だと不利なことが多いと思っていましたが、実際は共演者として信頼に値しなかった事が理由だったと気がつきました。私はそれ以来信頼される歌手になりたいとここまで歩んできました。これからは今回の出演を切っ掛けにこれまで学んできたことを hitaru プロジェクトや地域のオペラ公演で活かし“諦めない想い”（ヤマドリのように）で続けなくてはいけないと思っております。

私のオペラへの想いは、皆さんが思っている以上に熱く（笑）、その想いは家族にも伝わっています。娘たちは小さな頃から私と同じように舞台を見てきました。エレンがまだ 4 歳の時に同じ役でキタラに出演したときは私が領事役だったので舞台上で抱き上げられる度に安心感を持てたかと思いますが、今回は私の役との接点がないので、舞台上では一人で戦わなくてはいけません。長時間立っているだけで過酷だったかと思いますが、彼女はいつの間にかイタリア語の内容を理解し、その場に相応しい表情を毎回考えていました。それはキャストとスタッフが作り上げた稽古現場の雰囲気の良さと皆が 1 つの目的のためにやり遂げようとしている力が小さな彼女にも影響したためだと思います。

超越した技術を求められてもキャストに気配りをするプリマ、プリマを囲む歌手たちの結束、歌手たちが作る舞台を支えてくれるスタッフ、良いオペラは既に稽古現場で作られています。

心の中で一緒に歌ったエレンさん

エレンは“難しかったし、はっきりしなくちゃいけなかったし、大変だったけど、みんなで歌ったことが、エレンも楽しかった”と言っています。エレンは心の中で皆と一緒に歌っていたみたいです（笑）。

今後は、大学に所属しながら、若手の育成やイタリア語の指導をしながら、研究活動と舞台活動を続けていきます。ぜひ機会をいただいて、イタリアに戻れないこのフラストレーションを、皆さんとイタリアのお話をさせていただきながら解消していきたく思います。沢山の方に温かいお声かけをいただき、私たちの音楽活動にご支援いただいたことを心より感謝しております。

VIVA ITALIA！！ VIVA PUCCINI！！

（会員、北翔大学教育文化学部教育学科音楽コース）

コロナ禍の
「蝶々夫人」

もしクラスターを起こしたら――恐怖下、稽古１ヵ月半中止

パーテーション、マスクで歌声届かず

延与　幸恵

コロナの第2波が収まり始めた6月、予定より1ヵ月遅れで公募オーディション、キャスト選出が始まりました。 稽古を始めるにあたりガイドラインを作成。出演者、特に合唱の皆さんに出演の意思を再確認しました。今回、私の役割は制作チーフ兼カバーキャスト(蝶々さん)です。

最初の合唱の音楽稽古は椅子と椅子の間にパーテーションを置き時間をずらしてのパート練習。受付が常駐し出入りするすべての人をチェック、検温と手指消毒は徹底しました。しかし稽古は思うように組めず練習不足、またマスクをしているためうまく声が届かない状況でした。

稽古が進むとさらにいろいろな問題が起こりました。一つは、マスクをすると暑い上に息苦しく、とても体力を消耗すること、フェイスシールドは声が反響してピアノの音さえ聞こえづらいといった問題です。合唱用マスクも使いましたが、飛沫の問題があって結局12月からは全員に不織布マスクの使用を義務付けました。

さらに感染防止に対する認識が人それぞれで、マスクの付け方一つでも感染を心配するクレームが制作に寄せられるようになりました。そうした意見に配慮しつつ、ギスギスした雰囲気にならないよう努めて明るく声がけをするようにしました。

8 月末、ついに公演開催が正式に決定。決定を聞いた瞬間、腹の底にズンと重たいものが落ち込むのを感じました。一番の恐怖はクラスター。全国各地で演奏活動再開の動きがある中、もしここでクラスターを起こせば全国の関係者に多大な迷惑をかけ活動再開に水をさすことになる。hitaru や北海道二期会の名誉、何より出演者、スタッフの健康を守れるのか？もし自分の判断ミスで取り返しのつかない事態になったら？その恐怖は最後まで私の心から消えることはありませんでした。

9 月～10 月の稽古は順調。それが暗転したのは 10 月下旬、相次いで出演者の関係先で感染者が出たと連絡が入り、すぐ2週間の稽古の休止を決定。その週を境に札幌市内の感染は急拡大しました。稽古再開のタイムリミットはどこなのか？感染者数は高止まりのまま。こんな中で稽古や衣裳合わせ、カツラ合わせなんてできるのか？結局公演の準備を鑑みて12月13日から再開、稽古休止からすでに1ヶ月半、本番まで残すところ2ヵ月になっていました。

年明けの稽古は出演者の体調管理が最優先事項。2月の稽古が始まるギリギリのタイミングで PCR 検査を実施。そして感染が一番心配されたのはマスクを取る GP(ゲネプロ＝最終の通し稽古)と本番。メイク道具は全て個別に用意、メイク後はマスクができなくなるためおしゃべりも禁止、楽屋でも座る場所を指定し、話す必要があるときは口元をハンカチで隠して飛沫が飛ばないようにするなど、事細かな注意が出されました。さらにお客様との接触は一切認めず、ケータリング、打ち上げもなし。全てが異例づくしの公演でした。

「蝶々夫人」の舞台から、結婚式の大合唱のシーン

本番から2週間が経った3月6日、公演終了報告のメールを出演者に送り、コロナ禍での「蝶々夫人」をようやく終えることができました。

こうして舞台を遂げられたことは個々の皆さんの協力もさることながら舞台の神様に守っていただいたとしか言いようがありません。現在は変異種も出ており、状況は予断を許しません。まだしばらくはこうした緊張の中で活動を続けていくことになります。コロナの終息を願うばかりです。　　(会員、北海道二期会オペラ部常任理事)

ダンテを読みたくなった

オンラインサローネ　第２弾「ダンテと『神曲』丸わかり講座」開く

北海道日伊協会は第２回のオンラインサローネ「ダンテ没後 700 年　ダンテと『神曲』丸わかり講座」を３月 16 日夜に開きました。ミキ・ツーリストとミキトラベル・ローマの協力で、第1回に続きフィレンツェ在住のガイド・増田千穂さんに現地からライブ配信していただきました。午後８時 10 分前、パソコン画面を開き、あらかじめ受信していたウェビナーのアイコンをクリックすると、サローネのタイトル画面が出てきます。８時になり、ミキ・ローマ側の挨拶とコロナ感染悪化の報告のあと、増田講師が画面に登場、講義に進みました。
増田さんは、本の挿絵や図表を次々に示しながら、①ダンテの人生と作品②『神曲』の分析③神曲がなぜイタリア語の基礎になったか―について１時間、よどみなく解説してくれました。受講者は 29 人（一般６人）。

マリアンナさん終わりの挨拶（左は増田講師）

サローネの終わりにご挨拶し、私が大好きなダンテの神曲について短く話すことができました。言いたいことが山ほどあったのに与えられた時間のたった1分。何について話せばよいのか、ずっと悩んでいましたが、結局自分の経験について話すことにしました。

ダンテの『神曲』大好き　高校で三年読み続けました

ダンテと神曲との出会いは中学校のときでしたが、『神曲』を読み出したのは高校に入ってからでした。イタリアの高校は専攻によって違い、すべての高校生は神曲を読むわけではありません。私が通っていた高校は Liceo Classico と言い、国語と古言（ラテン語、古代ギリシャ語）と哲学をメインにしているので、ほかの高校と比べたら国語の勉強が非常に細かくなります。神曲を理解するのにある程度の知識が必要とされているため、高校1年生ではなく3年生のときに始まります。しかも、1年だけではなく、3年かけて神曲を読みます！（イタリアの高校は5年制度です）

私の場合、3年生のときに「地獄篇」を読み、4年生のときに「煉獄篇」、そして5年生のときに「天国編」を読んでいました。国語の授業とは別に神曲の授業がありました。現代イタリア語とは別の言語に見えるので、「読む」という感じではなく、「翻訳する」という感じでした。学校で読む神曲は特別な教科書で、各ページにはとても長い脚注がついています。意味や当時の歴史的な背景などについて書かれています。3年連続読むと大変ですが、私の一番好きな授業でした。先生もよかったのかもしれませんが、神曲の意味は本当に深くて驚くときも少なくなかったです。神曲を読んでいると時間が経つことを忘れる、それくらい好きでした。

高校に戻ってもっと一生懸命勉強すればよかったなと思うときが最近増えてきました。ちなみに、神曲で一番好きな部分は、間違いなく「地獄篇」です。始まりは暗記させられていたのですが、まだ覚えています（笑）

ところで、今年の3月から神曲シリーズのアイスクリームが発売されているようです。3～4月は「地獄篇」（ラズベリーと塩を効いたビターチョコレート）、5～6月は「煉獄篇」（ダブルキャラメル）、7～8月は「天国篇」（ピンクチョコレートとピスタチョ）だそうです。どれも食べたいですね～日本人の皆さま、是非神曲を読んでみてください。すぐにあきらめないのがポイントです！！　（理事、伊語教室講師、前橋市）

＊次ページに受講者の感想特集

復活祭の思い出

安達　美帆

長く雪に覆われていた地表もすっかり顔を出し、北海道にも遅い春がやって来た。この時期になると、留学中にイタリアでご招待頂いた復活祭のことをふと思い出す。

復活祭とは、年によって日付が変わる、「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」で(何ともややこしい)、今年は4月４日にあたるそうだ。当然、十字架にかけられ死んだ、キリストが復活したことを祝う宗教行事であるが、イタリア人にとっては、春の訪れを実感する節目でもある。

私は2015年に半年間、ロータリー財団の奨学生として、トリノで語学・文化研修をさせて頂いたのだが、その際に色々とお世話して下さったのがマルコさんだ。

私の滞在を少しでも有意義なものにするべく心を砕いて下さり、渡航前に、イタリアで興味のある事柄や体験してみたいことをありったけ書くよう言って下さった。そこで、リストの筆頭に書いたのが、「イタリアで人々がどんな風に復活祭を過ごすのか知りたい」というリクエストだった。

以前、たまたまクリスマスイヴに、イタリアを一人旅していたことがあったのだが、旅行者の私は、いそいそと家路を急ぐ人々の中にあって、一人蚊帳の外だった。スーパーや商店なども予想以上に早く閉まる中、行くところがなくなり、夕方まで開いていた美術館に向かった。元々人影がまばらだった美術館は、順路を奥に進むほどにいよいよ閑散として、私一人だけ彫像が並ぶ部屋に行きついた時には、本当に怖ろしくなった。自分一人が根無し草のような、心許ない気分だった。

マルコさんは、トリノの南西、列車で一時間足らずのPinerolo という小さな町に住んでいた。アルプスの麓に位置するPinerolo は、トリノオリンピックのカーリング会場があった地としても知られる。

イタリアには“Natale con i tuoi, Pasqua con chi vuoi (クリスマスは家族と、復活祭は過ごしたい人と)”という言葉があるが、お嬢さん二人がまだ中学生と小学生のマルコさんは、ご家族で復活祭を祝うとのことで、その団欒に招待して下さった。

イタリアに到着してから、ずっと春らしい陽気が続いていたが、復活祭当日は、曇りの肌寒い日だった。駅までマルコさんが迎えに来てくれ、まずは子供の頃から通っているという教会に向かい、午前中のミサに参列した。

教会内に満ちた厳かな雰囲気を感じながら、祈祷をぼんやりと聞いているうち、ミサは終わったが、最後に口々に “Pace”と言いながら、両隣の人と手をつなぎ合うという一瞬の出来事が、一番深く心に残った。見知らぬ東洋人の私に、さっと差し伸べられた手に、信者でない私も、とても温かく敬虔なものを感じた。

温かかった町の教会の復活祭ミサ

ミサが終わればいよいよ復活祭の昼食だ。マルコさんのご友人のレストランで、マルコさんのご両親も含む、ご家族の輪の中に入れて頂いた。最初は、初めて会うご家族と一緒に、長時間食卓を囲むことに若干の不安もあったが、杞憂だった。皆さんが色々と質問をして下さり、お二人のお嬢さんも、少しはにかみながら、競うように私に話しかけてくれた。心地よく自然と時間が流れた。

次々と料理が出され、昼食は優に三時間以上続いた。前菜だけで3、4品、さらにパスタだけで3品くらい続き、メインはお決まりの子羊だった。ほとんど休みなく食べ続けた。お料理はどれも美味しく、次々と残さず平らげる私を見て、隣に座っていた奥さんのフェデリーカさんが「お腹がいっぱいだったら、残してね」「私、子羊は嫌いなの。嫌だったら残してね」等と細やかに気遣ってくれた。

私はデザートまで全て残さず味わった。その日の夜はもちろん、次の日の昼くらいまで何も食べられなかった。

食後、まだあどけない次女のジューリアが“Qui sempre esageriamo (ここに来ると、いっつも食べ過ぎちゃう)”とため息まじりに言っていたのが、とても愛らしかった。

少し散歩をしながら町を案内して下さり、開催中の美術展を見て別れた。 温かいご家族のお陰で、イタリア到着直後の緊張が和らぎ、数年後の今でも大切に思い出す、特別な一日となった。

新型コロナ禍と闘うイタリアのロックダウンは、復活祭の前後には全国に拡大される。人々が少しでも心安らぐ復活祭を、と願ってやまない。　　(会員、イタリア語講師)

大和達也さんのアッシジ

ENIT スケジュール手帳に採用

初めてのアッシジは 2016年正月に2泊しました。3日の夕べ、ロッカ・マッジョーレのある丘から、素晴らしいパノラマを見ることができました。この瞬間を記録しようとシャッターを切りました。

ENIT(イタリア政府観光局)の 2021 手帳(4 月はじまり)の写真公募を知り、6 枚ほど応募しました。気に入っている 1 枚ですが驚きでした。こんな素人の写真でいいのかな、という感じです。

『世界歴史体系 イタリア史第二巻』刊行

計画から 10 年、『世界歴史体系 イタリア史』全 3 巻のうち第 2 巻(中世・近世)が、トップを切って 3 月末に刊行されました(山川出版社)。

ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノ、ナポリ、シチリアをはじめ個性豊かな存在が活躍するこの時代のイタリアは、一つの核を中心に描くことができない「諸国家史」であり、執筆者の数もシリーズ最多。

日本語ではこれまでほとんど読めなかった場所やテーマも取り上げられているそうです。全 730 ページ、10,450 円。予約受付中。

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄

「こころを彫ること」展　4 月 21 日~5 月 10 日

石と向き合う時間は
自分を見つめる時間
—安田　侃

アルテピアッツァ美唄で毎月行っている「こころを彫る授業」。そこで使われているイタリア・カッラーラ産の大理石やイタリア製の道具、これまで授業に参加した方が彫った「こころのかたち」のパネルなどをギャラリーに展示します。「こころを彫る授業」の魅力に迫る展覧会、ぜひご覧ください。

問い合わせは
美術館 arte@artepiazza.jp まで

編集後記　コロナで閉塞感が続く春。会員たちの生き生きとした姿を、会報から見ていただけましたか。オンラインサローネの感想を特集しましたが、伊語教室グループはSNS フェイスブック、ツイッター、インスタグラム発信を始めました。ネット上で会話が活発になるでしょう。こういう時は in bacca al lupo ! と励ますところ。ドサンコだから「キムンカムイの口の中へ」か。庭にはクロッカス、サクラの開花は早いそうです。(彦)